

# イオラニ、 プナホウへの道



**ドクター高橋俊明**  
心理学博士  
ドクター高橋塾長  
1947年宮崎県生まれ。県立大宮高、東京教育大学心理学部を卒業。東京教育大学院心理学科を修了し、ハワイ大学心理学博士課程に進学。68年に神奈川県・川崎市に高橋塾を設立し、77年にホノルルにドクター高橋塾を設立。データ分析を基にした独自の指導法で、2014年度は、ハナハウオリ校に2人、イオラニ校に34人、プナホウ校に72人を合格させている(合格率55%)。  
Web: www.juku-in-hawaii.com ☎ 808-949-3366

## 【その114】ハナハウオリ校

### プナホウ校、イオラニ校の登竜門

ハワイ州の中で、プナホウ校やイオラニ校の登竜門といっても良いほど優秀な小学校が、マキキ地区のプナホウ校まで1ブロックほどの所にあります。ジュニアキンダーから6年生までの8学年で、各学年わずか25、26人しかいません。全校生徒は、最大で208人です。

かつてハワイの公立校は、6年生で卒業していたので、7年生受験が幼稚園から高校に至るまでの受験の中で最も熾烈でした。しかし、最近では、公立校のほとんどが、5年生で卒業させています。この時代の変化に伴い、プナホウ校やイオラニ校の6年生受験は、厳しさを増してきました。にもかかわらず、7年生受験が、易しくなったわけではありません。その最大の理由が、このハナハウオリ校の存在なのです。

表① 両校の定員

	6年生	7年生
プナホウ校	88人	80人
イオラニ校	50人	50人

表①を見てくださいます。プナホウ校とイオラニ校の定員です。ハナハウオリ校の6年生卒業生の約90%以上が、プナホウ校やイオラニ校の合格を勝ち取っています。つ

まり、プナホウ校やイオラニ校の卒業生を引いた分が、その他の受験生に開いている分だと言えます。ハナハウオリ校卒業生の優秀さは、両校の入学担当者もよく分かっているようで、「単に学力が優秀というだけでなく、その探求心や、真摯な態度が他校の卒業生に比して抜きん出ている」と言った方もいます。私も、塾でハナハウオリ校の生徒に接すると、全く同じ印象を抱きます。その都度、「どうしてハナハウオリ校は、子どもたちを、宝の中の宝に教育しているのだろうか?」と同じ教育界に身を置くものとしての羨望にも似た感慨を深くします。

### ハナハウオリ校合格

去年、ハナハウオリ校とプナホウ校の2年生に合格した生徒の父兄から、「どちらを選べばよいでしょうか?」という相談を受けました。その時、私は次のような二つの事実を語り、父兄の判断の材料にしてもらいました。「一つ目は、1986年『The Council for American Private Education and the National Department of Education』が全米の私立小

学校、幼稚園の調査に関するものです。その結果、ハワイ州でハナハウオリ校が1番、全米でトップ5校に選ばれ、当時の校長だったDr. Petersが、ホワイハウスでの表彰式に出席しました。二つ目は、ハナハウオリ校を卒業した私の子ども二人が、共にプナホウ校に進学したので、特に英語力、弁論力などで、自分たちの方が、すでに上をいっていたそうです。特に長女に関しては、卒業式で、42人以上ものプナホウ校卒業生の中で、英語の部門のトップと表彰されました。日本語しか使わない家庭に育った娘が、『なぜあなたの英語がそんなに優秀なの?』と聞かれると、娘は『ハナハウオリ校のおかげだ』と即答しました。」

これらの情報によってか、この父兄は、最終的にハナハウオリ校を選択しました。そして今年、その方々の次女も見事、ハナハウオリ校のジュニアキンダーに合格しました。

塾からは、この子を含め計3人がハナハウオリ校に合格しました。18年にCook夫婦によつて創設されたこの小さな学校は、今や、ハワイの子どもたちを、「宝の中の宝」にする堂々たる大樹に成長しています。夫婦の一念が、何とも心地良い空気となって、小さなこの教育の場に漂っています。サマースクールは一般に公開されているので、この夏、その空

気にお子さまを触れさせることをおすすめします。

### ハナハウオリ校合格体験談

ある私立校の1年生になるWちゃんが来塾したのは、去年の夏でした。「ハナハウオリ校の2年生を受験したい」ということで、11月までは、マネージャーの「H先生が個人教授を行い、ハナハウオリ校受験のための導入部分を徐々に固めました。幼稚園を修了した後の生徒を、いわゆる受験勉強という塾の勉強法に慣れさせるのが導入部分です。

次に、「H先生が敷いたルールに従い、今年1月まで」先生が加速の勉強を担当しました。一気にレベルを1学年上まで上げる勉強です。そして最後の仕上げは、元マネージャーで顧問的な存在のベテランの「M先生」が担当し、試験に臨んで生徒が集中力を持ったまま、実力を発揮するよう訓練しました。ハナハウオリ校は、ジュニアキンダーで生徒を取つてからは、欠員が出た時にしか枠はありません。その意味で、Wちゃんは、本人の努力もさながら、本当にラッキーでした。「宝の中の宝」になってもらいたいです。(今回は、プナホウ校、イオラニ校幼稚園受験結果と体験を紹介します)